

● チーム全体で力足りず

JTサンダーズ広島は福山市で開催されたプレーオフで敗れ、今季を4位で終えた。多くの皆さまに会場内外で声援をいただいたことに感謝するとともに、期待に沿えず、申し訳なく思う。

敗戦後は誰もが沈痛な面持ちだった。深津旭弘選手は「今シーズン最も

竹田 英司



4位の表彰後、
悔しそうな表情
の山本将平主将
(2月23日)



ふがない試合をしてしまって申し訳ない」と語り、普段は陽気なエドガー選手にはかける言葉がなかった。サトル監督は「われわれはチームとして勝ちもすれば負けもする。試合に出た誰かのおかげで勝つわけでも、誰かのせいで負けるわけでもない」と訓示した。まだチーム全体として力が足りなかったのだろう。

チームバスが猫田記念体育館に到着すると、井上航選手が名残を惜しむように陳建禎選手の頭をなでまわしていた。いつもの光景だ。日本代表に招集された小野寺太志選手は大きな手を差し出し、「竹田さん、長いシーズンお疲れさまでした」とねぎらってくれた。

私にとってリーグ戦は初めてだった。正直なところ「一日も早く終わってくれ」と考えてしまうほど多忙を極めていたが、終わってしまえば「まだやれたことがあったのではないかと反省しきりである。

(JTサンダーズ広島)